



福音讃美歌ジャーナル

福音讃美歌協会

新しい歌を
主に歌え

■巻頭言■「楽譜の余白」

福音讃美歌協会・讃美歌委員 土井康司

「主は、私の口に、新しい歌、われらの神への賛美を授けられた。」詩篇40篇3節

『教会福音讃美歌』が出版されて1年半がたちました。この歌集で新しい歌と出会っていただけていたら嬉しく思います。しかし何か歌おうとページをめくってみても、結局知っている曲を選んでしまうという方も多いかもしれません。もし「どんな曲かわからないから」という理由で多くの曲を敬遠している方がいらっしゃるなら、そういう方は幸いです。それだけ多くの出会いが待っているからです。

『教会福音讃美歌』はどこを開いても楽譜ばかりです。楽譜だけを頼りに歌うのは、特に知らない曲ともなりますと、なかなかの努力が必要です。面倒に思われるかもしれませんが、そこにこそ大きな意味があることを知っていただきたいと思います。

そもそもなぜ楽譜を使うのでしょうか。楽譜はインクの染みです。そんなもので音楽を記すことなど出来ません。それより演奏した音をCDなどで配布した方が、音楽を伝えるのにはよいかもしれません。それでも楽譜が用いられるのは、楽譜に不完全な所、つまり「余白」があるからこそです。演奏する人が余白を補わなければ、楽譜は音楽になることができません。楽譜を使う時、演奏する人の存在が音楽の一部として不可欠になるのです。私たちは何によって余白を埋めるのでしょうか。信仰をもって楽譜に向かう時、その余白は「賛美」で埋まります。

『教会福音讃美歌』の楽譜は、義務教育の範囲で読めることを基準にしています。楽譜が苦手という方でも時間をかければ、メロディーの音をひとつひとつ、ピアノの鍵盤などでたどっていくことはできるでしょう。ぜひ知らない曲に取り組んでみてください。和音を弾けなくても、メロディーだけで十分です。そして歌詞の意味を思いながら、ゆっくりでも歌ってみてください。その時、世界で唯一、その人だけが奏でられる歌が生まれます。神様はひとりひとりを異なるものとしてお造りになり、すべての人を愛してくださっているのですから、他人と違う演奏でも、下手に思える演奏でも、かけがえのない賛美として神様は喜んでお受けくださることでしょう。

『教会福音讃美歌』に知らない曲が多いほど、新しい歌を献げるチャンスも多いのです。楽譜がインクの染みのまま終わらず、「口」に賛美を授けていただくために用いられますようお願いしています。

◆新しい讃美歌の試み

昨年4月から本年2月まで、お茶の水聖書学院（OBI）で特別講座「讃美歌入門——歌詞を味わい、評価し、つくる」が開講されました。今回は、その中で新しく創作された2曲の讃美歌をご紹介します。

この特別講座を受講したのは、牧師夫人、神学生、音楽奉仕者など計12名。15回の講義で、讃美歌について基礎的なことから学びながら、実際に歌詞を味わい、評価し、期間中に新しい讃美歌を作詞をするところまで行いました。作詞は選択制でしたが、全員が自ら選んで取り組みました。講義では、作詞をするために必要な讃美歌詞の基本的作法ともいべきものを学びましたが、作詞は基本的に宿題で、メールでやり取りしながら講師が指導する形で行われました。各自が歌詞の題材となるみことばと格闘したことはいうまでもありません。

コンテンポラリーなスタイルの讃美歌では、自分で創作したり、海外の作品を翻訳紹介している人たちは決して少なくありません。教会や教派・教団レベルで取り組んでいるところもあります。しかし、いわゆるオーソドックスな讃美歌のスタイルを学んで創作している人は僅かです。

オーソドックスなスタイルの讃美歌詞は有節の定型詞です。つまり、通常2～5節程度の歌詞があり、各節の字数は同じになっています。この形には二つの利点があります。

一つは、節が複数あるために歌詞が比較的長くなり、深い意味を盛ることができるということです。また、節を追うごとに意味を深めたり、展開することもできます。讃美歌を歌うことを通して深く教えられ、取り扱われることのできる形と言えるでしょう。

もう一つは、同じメロディーで節の回数だけ歌うことになるので、曲も詞も記憶に残りやすく、歌いやすくなることです。礼拝に集う会衆のすべてが音楽教育を受けているわけではありませなし、礼拝前にすべての讃美歌の予習ができるわけでもありません。そのような用いられ方をする音楽として、有節の定型詩という形は理にかなっていると言えるでしょう。

講義の期間中に歌詞として完成し、実際に作曲までいたった作品は、今回ご紹介する二つだけでしたが、他にも講義終了後に作曲に取りかかった作品や、作詞者が自分で推敲しているものなどがあります。

■作詞者によるコメント

♪「あなたの愛を身にまとい」 作詞：天海和彦 作曲：土井康司

洗礼を受けて間もない私に、神様は娘の死という試練を与えられました。

悲しみ、疑問の中にある私に、神様はあらかじめ、音楽、歌を用意していただきました。

今娘は天国で神様とともにいます。神様はいつも私とともにいます。

神様のそばにいる娘を、私はいつも感じる事ができるのです。

♪「私たちを一つにしてください」 作詞作曲：大和田広美

キリストは、十字架に向かわれる前に、残される人々が一つとされることを祈られました。

福音宣教の業は、教会の一致の中で力を持って広がって行くからです。

しかし私たちはばらばらになりやすいものです。

だからこそ、目指すべき目的に目を留め、祈りながら一致を求め続けて歌いたいと願います。

あなたの愛を身にまとい

作詞：天海和彦 作曲：土井康司

1. あなたの愛を 身にまとい
あなたの前に 進み出ます。
十字架により 贖われ
あなたの前に ひれ伏します。
2. 白い衣を 身にまとい
あなたの前に 進み出ます。
私の罪を 赦された
深い恵みに 感謝します。
3. 以前のものは 過ぎ去って
もはや死もなく 嘆きもない
この目の涙 拭いとる
あなたの御名を 讃美します。

※お断り

本作品の曲はJASRACが管理しており、無償での公開ができません。
曲については印刷板の『福音讃美歌ジャーナル』17号をご覧ください。

私たちを一つにしてください

作詞・作曲：大和田広美

1~4 か み さ ま わ た し た ち を ー ひ

と つ に し て く だ さ い た し が い に あ い し あ に つ よ
 へ ん い の の こ き と ば に れ た
 主 イ エ ス の な が さ

て り た が い に ゆ る し あ っ て キ リ ス
 り こ こ こ る を き よ め り わ か っ
 血 十 字 架 を あ お み ま す せ ひ と か い

ト イ エ ス の 御 名 を ー せ か い に つ た え る た め
 ら イ エ ス の 御 名 を ー せ か い に つ た え る た め
 の が ひ ば を か が め 主 の 御 名 あ が め る た め

1. 神様、私たちを一つにしてください
 互いに愛し合って
 互いに赦し合って
 キリスト・イエスの御名を
 世界に伝えるため

3. 神様、私たちを一つにしてください
 平和の絆により
 心を結び合わせ
 一つの体として
 主イエスを表わすため

2. 神様、私たちを一つにしてください
 真理の言葉により
 心を清め分かち
 罪から自由にされ
 救いを知らせるため

4. 神様、私たちを一つにしてください
 主イエスの流された血
 十字架を仰ぎ見ます
 世界が膝をかがめ
 主の御名あがめるため

◆讃美歌セミナーレポート◆

「讃美の集い」に参加して

日本長老教会 東久留米泉教会会員 加藤潤哉

昨年10月20日（日）日本長老教会東久留米泉教会（東京都）において「讃美の集い」が開催されました。当教会では毎年この時期に賛美集会を開催していましたが、今回は、前年に出版された『教会福音讃美歌』について知りたいという声を採り入れ、その拡張版としての開催となりました。講師は福音讃美歌協会副理事長の中山信児先生が務めてくださいました。

教会で企画を進めたのが「賛美チーム」という奉仕グループで、普段は礼拝前の10分間の賛美タイムを担当しています。今回、その中で特によく話し合われたのが、同じ教会の中でも賛美への思いや興味は個人差があるので、誰もが興味を持って参加できるような企画にしたいということ。そこで、講師に解説していただく讃美歌は、新しいものだけでなく、誰もが知っている曲を織り交ぜてほしいということや、音楽的に初心者でもわかる解説をお願いしたい、という希望をお伝えし、感謝なことに快諾していただきました。

一方、準備が進んでいく中で、一つの課題が浮かび上がってきました。それは、企画に携わっているメンバーばかりでなく、教会全体で盛り上がり、多くの人が興味と期待を持って参加するためにはどうすればいいのか、ということでした。そこで取り組んだことは、メンバーの一人が自身の経験から出してくれた提案を元に、事前に2度にわたって準備号を発行して配布するということでした。その中で賛美についての証しや今回の集会の特徴、講師紹介や曲目などを掲載し、興味が高まるよう努めました。



東久留米泉教会の皆様

そのような中で迎えた当日、講師の中山先生によるユーモアたっぷりの話に惹きつけられ、わかりやすく丁寧な解説をいただき、期待を上回る恵みの時間を過ごすことができました。

冒頭では、『教会福音讃美歌』の作られた経緯を伺い、今後の構想や展望についてもお話を聞くことができました。特に、「讃美歌集の寿命というものを考えたことはありますか？」というとてもユニークな

問いかけを切り口に、讃美歌集の今後について語ってくださったことが印象に残りました。

解説してくださった讃美歌は、『教会福音讃美歌』に収録された「ほめたたえよ」「とうとき主のみ救いよ」「確かなもといただ主に置き」「初めにおられた神のみことば」「御名をほめたたえる歌声より」の5曲。それぞれに全く違う角度から光をあてて紹介していただき、それぞれの讃美歌の素晴らしさを深く知ると同時に、賛美そのものの素晴らしさに触れ、また、今まで意識せずにいたことに目を開かせられる、貴重な時間となりました。興味深かったのは、「日本人による作詞・作曲の讃美歌はなぜ心に残りやすいか」ということや、言葉について「使わなくて良いものは使わず、変えられるものは変えていく」という方針の具体例で、深く納得させられ、また、讃美歌が作られた際のエピソードにも心動かされました。

単に『教会福音讃美歌』の紹介にとどまらない、盛り沢山で贅沢なひと時を過ごさせていただき、多くの教会にこの「讃美の集い」の開催を勧めていきたいと思っております。

❖ INFORMATION ❖

♪ OBIセミナー 第5回 教会福音讃美歌セミナー

より良い礼拝と讃美のあり方について、いろいろな角度から学びを深めます。牧師、宣教師、教師、役員、音楽奉仕者を初め、多くの皆様の参加をお待ちしています。

- 日時：2014年5月10日（土）10:30～15:35
- 場所：お茶の水クリスチャン・センター 416 号室
- 共催：お茶の水聖書学院、福音讃美歌協会
- 受講料 1日4回で6,000円。 部分参加の場合は、1回2,000円
- お問い合わせ：OBI事務局 03-3296-1005

セミナー内容

	時間	内容	講師
1 限	10:30-11:30	共にたてあげる礼拝 牧師・音楽奉仕者・会衆	中山信児
2 限	11:35-12:35	礼拝の意図・特質を理解共有する	植木紀夫
3 限	13:30-14:30	礼拝とパネルディスカッション 1	
4 限	14:35-15:35	パネルディスカッション 2	

♪ お茶の水聖書学院（OBI）特別講座「讃美歌入門」

- 日程（いずれも月曜日 時間18:30～20:00）
5月12日、6月2、9、23、30日、9月1、8日、10月6、20日、11月17日、12月1、15日、1月5、19日、2月2日
- 内容（予定）：教会の業としての讃美歌集編纂、みことばと讃美歌、讃美歌の選び方、讃美歌と著作権、世界の讃美歌1～7、讃美歌とインターネット、これからの讃美歌と讃美歌集、他
- 共催：お茶の水聖書学院、福音讃美歌協会
- お問い合わせ：OBI事務局 03-3296-1005

♪ CD『教会福音讃美歌』

- 『教会福音讃美歌 Vol.1』「礼拝を豊かに」好評発売中 （定価2500円+税）
- 『教会福音讃美歌 Vol.2』「新しい歌」 今秋発売予定
- 商品の詳細は Gospel Shop インターネット店 (<http://www.gospelshop.jp/>) をご覧ください。

♪ 讃美歌についての集会を企画してみませんか。

礼拝説教、伝道会、修養会、讃美についての学び、音楽奉仕者の研修や講習などに、福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を派遣いたします。ぜひお招きください。
お問い合わせ：info@jeacs.org tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921（いのちのことば社）

♪ 「福音讃美歌ジャーナル」投稿募集

福音讃美歌協会の働きへのご意見、ご希望、『教会福音讃美歌』についての感想、讃美についての思い、教会での取り組みの紹介など、皆様からの投稿をお寄せください。

- ・原稿は600字以内。
- ・電子メールに書類（テキスト、ワード、PDF）を添付し、住所、氏名、電話番号、所属教会を明記の上、福音讃美歌協会（info@jeacs.org）までお送りください。次号（10月発行予定）掲載分の締切は、8月末日です。掲載誌の発送をもって採否の発表に代えさせていただきます。

＊ 会 計 報 告 ＊

2013年4月-2014年3月

■収入の部■

科 目	2013年度予算案	2013年度実績
会員負担金	1,160,000	1,245,000
正会員	750,000	750,000
準会員	60,000	60,000
賛助会員	350,000	435,000
自由献金	300,000	230,000
その他	461,000	406,214*
当年度収入合計（A）	1,921,000	1,881,214
前年度繰越金	887,530	887,530
収入合計（B）	2,808,530	2,768,744

■支出の部■

科 目	2013年度予算案	2013年度実績
理事会費	140,000	66,753
委員会費	410,000	269,837
人件費	360,000	360,000
事務費	500,000	323,706
ジャーナル発行費	430,000	406,640
カンファレンス開催費	240,000	111,155
総会開催費	20,000	4,768
JEA関係費	50,000	35,000
予備費	80,000	0
当年度支出合計（C）	2,230,000	1,577,859
当年度収支差額（A） - （C）	- 309,000	303,355
繰越額／残高（B） - （C）	578,530	1,190,885

* 『教会福音讃美歌』 小型版の編纂印税

【賛助会費納入者】（2013年4月～2014年3月）

栗橋キリスト教会、都賀キリスト教会、上作延キリスト教会、浜田山キリスト教会、馬天キリスト教会、キリスト教朝顔教会、大宮キリスト教会、菅生キリスト教会、世田谷中央教会（9教会）順不同
 刑部照美、倉富隆子、斉藤眞木子、石川岩夫、高橋和江、稲垣博史・緋紗子、福田崇・愛子、横倉知恵、大賀勝範、小林義正、田村勉、中山信児、藤本侃也（15件）順不同

【献金者】（2013年4月～2014年3月）

こどもの国キリスト教会、長津田キリスト教会、川越聖書教会、武蔵台キリスト福音教会、泉キリスト教会、古河教会、大磯キリスト教会、日本福音キリスト教会連合、篠田安子、高橋和江、小林由貴子、山村雅彦、西川晴子（13件）順不同

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

ハレルヤほうや

by yukinko



マ716:31-33

福音讃美歌協会・会員募集

◇会員の種別は、以下の三種類です。

正会員（教会・教団・教派等）、準会員（超教派団体・グループ等）、賛助会員（趣旨に賛同し支援してくださる教会、個人等）

◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認後、年会費のお振込みにより入会が完了致します。

◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127

名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座（ばるる）◆

番号 10500-82654721

名称 福音讃美歌協会

◆銀行口座◆

みずほ銀行 ユーカリが丘支店

普通預金 口座番号 1604668

名称 福音讃美歌協会

一般社団法人 福音讃美歌協会 JEACS

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
OCCビル 602号室

tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921

（いのちのことば社出版事業部内）

ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

From Editor

編集後記

私がこの編集後記を書いている間にも世界のどこかで新しい讃美歌が生みだされています。一年の間に、いったいどれほどの新しい讃美歌が生まれるのでしょうか。もし、そのような統計があれば、讃美歌編集者は文字通り嬉しい悲鳴！を上げることになるでしょう。

より良い讃美のあり方とより良い讃美歌、そして、より良い讃美歌集を求める旅は、地上に信仰が続き、教会が存在する限り終わることはありません。

私たちは、それまでの働きの集大成として二〇一二年に『教会福音讃美歌』を発行しました。これは福音讃美歌協会の働きにとっても一つの区切りになりましたが、それは同時に新しい働きの始まりでもあります。

讃美歌集の編集とは、それまでに収集し、あるいは創作してきた多くの讃美歌を、評価し取捨選択して一つの歌集にまとめるという作業です。それは過去と現在を見つめる働きでした。

新しい働きは、二十年あるいは三十年後の大きな改訂に向け、今から将来を見据えて備えていく作業になります。その時には、今回、働きの中心にいた者たちは第一線を退いて、次世代あるいは次々世代の奉仕者がその働きを担うことになるでしょう。もしかすると三十年後の奉仕者の中には、まだ生まれていない誰かが含まれているかも知れません。そんな誰かのために道を切り開き、整えておくことが、私たちのなすべき新しい奉仕であり責任なのだと思います。（な）